



知りたい！
感じたい！

明石の自然 歩き隊!!



エコウイングあかし「自然グループ」



明石市 ● ● ●

明石市は東経135度の日本標準時子午線上にあります。また、瀬戸内海に面しており、明石海峡をはさんで淡路島を眼前に望むことができます。気候は温暖で、古くは万葉の歌人「柿本人麻呂」によって多くの歌が詠まれた風光明媚な地です。さらに、阪神都市圏と播磨臨海地域、そして海を隔てて淡路・四国と結ぶ位置にあり、海陸交通のうえで重要な拠点であることから、古くから城下町・宿場町として発展してきました。

また、縄文の時代から人と自然が共生して仲良くくらしてきました。今も里山、農地、ため池、水路、川、海へと水の流れでつながる豊かな自然と文化が、たくさん残っています。

そんな私たちの大好きなまち“明石”の宝物探しをしようと、エコウイングあかし・自然グループでは、「明石の自然歩き隊」を計5回にわたって行いました。歩いてみると、驚くほど、たくさんの発見がありました。

この冊子は、“歩き隊”で見つけた明石の宝物をルートごとに紹介しています。

ぜひ、みなさんもこの冊子を片手に明石の自然や歴史文化を味わってみませんか？

大蔵谷旧宿場町～明石公園



2009年発行
【明石の自然歩き隊】
第三弾 P7、8参照

松陰新田周辺にすむ生きものの観察



サギソウ



ホソバナウナギツカミ



ミミカキグサ



ツルボ



ミゾカクシ



フユノハナワラビ



ツリガネニンジン



ワレモコウ



ネコハギ



ツユクサ



カタバミ



キツネノマゴ



ミソハギ



ウシハコベ



イヌタデ

ここは明石のほぼ中央に位置し、市内で一番大きな樹林地帯と点在するため池と水路でつながる田畑が広がっています。そこには、数多くの野鳥や昆虫・植物などの生きものが暮らし、とても豊かな自然環境を形づくっています。また、隣の松陰を源とする全長約4.1kmの谷八木川の水は、播磨灘へと注いでいます。



3

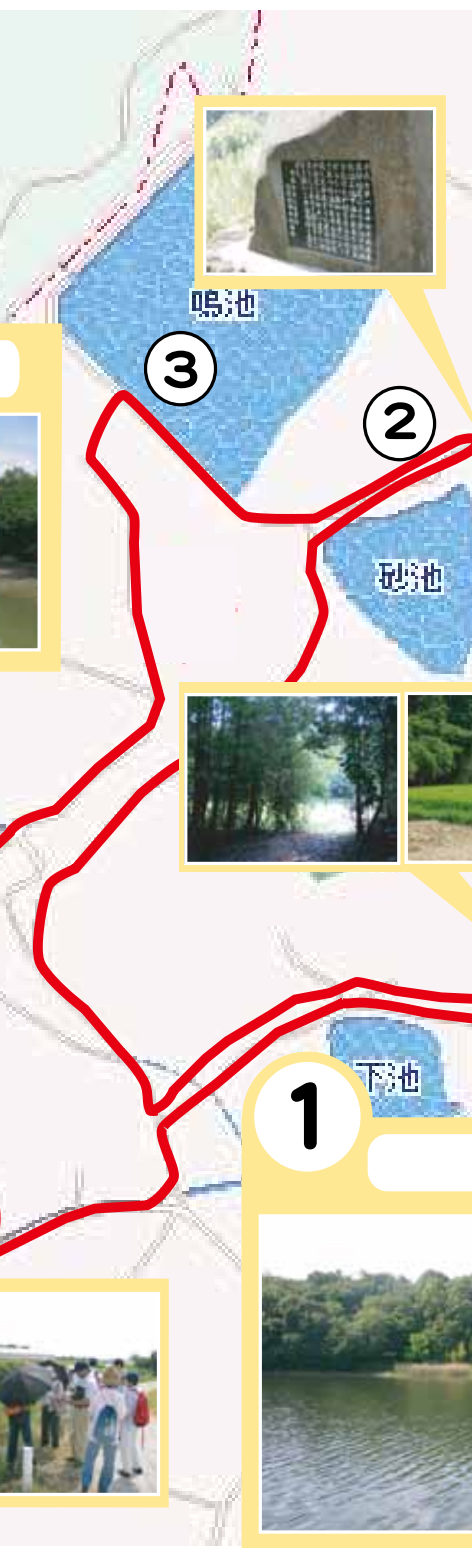
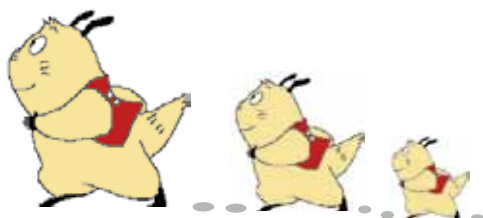
鳴池



スタート

4

ゴール



明石北高校南



35分
1.1km

①



35分
1.2km

②



10分
0.25km

③



30分
0.9km

④



30分
0.9km

※時間は「明石の自然歩き隊」で歩いた時の所要時間を目安にしています。
それぞれの見学時間は含まれていません。

2

砂池・口無池



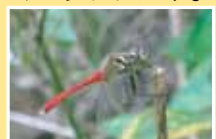
隠れ田

1

上池



マユタテアカネ♂



マユタテアカネ♀



上池

谷八木川～八木海岸

第四弾②

明石の海岸線観察&八木浜の今と昔



1



カルガモの親子
広がっています。
風、豪雨が相次
泥水につかり、
「大久保町北部
住民の多くは高
した」（資料：
ります。敗戦で
打ちをかけられ

4

八木の船泊まり



屏風ヶ浦の切立った地層からとれる粘土を利用して、江戸時代後期から瓦産業が盛んになりました。昭和50年代頃からは徐々に廃業に追い込まれ、現在はその姿を残していません。また、海岸は魚貝類の宝庫でしたが、海や環境の変化などにより、今では取れなくなった生きものもたくさんいます。しかし、現在では侵食防止整備がされ、豊かな海を取り戻すための活動が始まっています。

3

ゴール

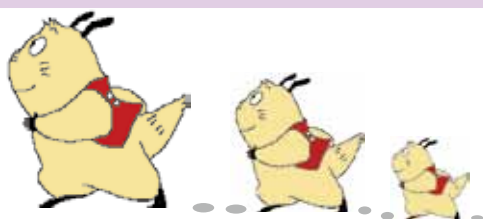
3

八木海岸の海浜植物



人工的に養浜された八木海岸の砂浜に
実をつけたツルナや紫色のハマゴウの
赤色のクコの実などが観察できました

2010年9月下旬実施



谷八木川



がそろって泳ぐのどかな風景が。しかし、戦後まもなく枕崎台、大久保町では約100戸が多くの人の命が失われました。そのため池がごとごとく決壊し、台の大久保小や国鉄線路へ避難（聞き書きあかし昔がたり）とあ、疲弊した人々にとっては、追いたような悲しい記憶です。

木小学校

住吉神社

ミシシippアカミギメ



旧浜街道

長光寺

アマモ



こは、
の花・
こ。

① 谷八木川
(明姫幹線下)



35分
1.1km

② 谷八木川河口



30分
0.9km

③ 八木遺跡公園周辺



20分
0.6km

④ 八木船泊まり



20分
0.6km

八木遺跡公園

※時間は「明石の自然歩き隊」で歩いた時の所要時間を目安にしています。
それぞれの見学時間は含まれていません。

スタート

1



カルガモ



2

谷八木川河口周辺の生きもの



大きな岩や石にはフジツボやカメノテ、イシダミガイ、イソギンチャクなどが付着し、小さな干潟にはアサリや多くの生きものが生息しています。また防波堤の内側の砂地には海のゆりかごとと言われるアマモ群落が見られ、小魚やエビ・イカなどの棲みかとなっています。

松陰新田と鳴池

松陰新田の歴史

松陰新田は、大久保町の北部、明石北高校の東から水道の貯水池である野々池までの、背後に里山が残る貴重な自然がいっぱいの地域です。

史実かどうかわかりませんが、映画「13人の刺客」で有名になった明石藩主松平齊宣からさかのぼること約200年、1649年、第5代明石藩主松平忠国が領主のときに松陰新田を開いたと伝えられています。



西国街道に近く、地の利に恵まれていながら、水がなく、開発が遅れていましたが、忠国は九つの池を造り、新田ができました。

それ以来、忠国を「道覚さん」と呼び、大林寺の裏山に供養塔を建て、その命日には「道覚まつり」を行っていたそうですが、いつからか途絶えてしまったそうです。



供養塔からの景色



供養塔



新田の成立には、ため池の築造が大きな役割を果たしました。農業にとって水の大切さは今も当時と変わりません。平成7年（1995）の阪神淡路大震災のときには、山間部にある上池・下池・鳴池・砂池・口無池が壊滅的な被害を受けました。この記念碑は、二度とこのような災害を繰り返さないとの、防災の強い思いを後世に伝えるものです。

鳴池について

松陰新田地区の大切な農業用ため池である鳴池ですが、以前は、森田・和坂のため池でした。今でも、松陰新田の集落のなかに森田溝と呼ばれている水路があります。その水路をとおって森田地区へ水が流れていたためでしょう。



鳴池

和坂の沢野池（現在は、沢池小学校）を改修するとき、莫大な費用が必要でした。その時、江井島が改修費用を出す代わりに、鳴池の権利が江井島に移りました。

江井島では、その後水不足で悩まされることがなくなり、先人への感謝のしるしで、皿池（マイカル明石西側の明石市内で1番大きいため池）の西北に鳴池の記念碑が建てられたそうです。その後、この鳴池は、江井島から松陰新田へと権利が移っていきますが、詳しいことはわかりません。社会情勢や経済情勢の変化のなかで、ため池の所有の変化もあったのでしょうか。



鳴池記念碑

あかしで観察できる鳥



明石市の地形は次のような特徴があります。

- ①東西に長く、南北に短い形をしており、海岸線と多く接しています。
 - ②高い山がなく、平野が広がっています。
 - ③東部は都市化が進み市街地が広がっています。
 - ④西部は農地やため池が多くあります。
 - ⑤大きな川は、明石川しかありません。
 - ⑥大きな公園は、明石公園、明石海浜公園、金ヶ崎公園などがあります。
- これらの特徴を知っていると、目的の鳥を上手に観察することができます。

クロ

ジョウビタキ

森や林の鳥



アオバズク



コゲラ

明石公園や金ヶ崎公園など大きな公園に行くと、森や林の鳥が観察できます。明石には山らしい山がないので、木々の多いこれらの公園は貴重です。観察できる種類は、キツツキの仲間のコゲラやアカゲラ、フクロウの仲間のアオバズク、ヒタキの仲間、オオルリやキビタキ、オジロビタキなど、1年間に70種を超えています。



オオルリ



キビタキ



オジロビタキ



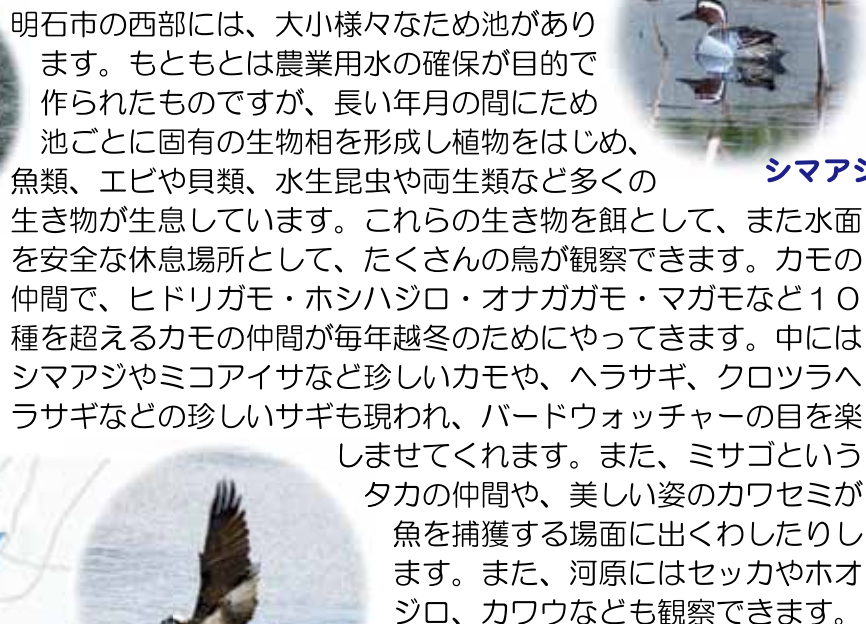
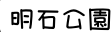
海の鳥



イソヒヨドリ

東は大蔵海岸から西は二見の海岸線を持つ明石市では、磯も適しています。ツグミの仲間を好むイソヒヨドリ、カモメやウミネコやコアシサシ、イを食べるシギ・チドリの仲間、コチドリなど、大きさから姿の異なる海鳥たちが観察できます。

池



明石市の西部には、大小様々なため池があります。もともとは農業用水の確保が目的で作られたものですが、長い年月の間にため池ごとに固有の生物相を形成し植物をはじめ、魚類、エビや貝類、水生昆虫や両生類など多くの生き物が生息しています。これらの生き物を餌として、また水面を安全な休息場所として、たくさんの鳥が観察できます。カモの仲間で、ヒドリガモ・ホシハジロ・オナガガモ・マガモなど10種を超えるカモの仲間が毎年越冬のためにやってきます。中にはシマアジやミコアイサなど珍しいカモや、ヘラサギ、クロツラヘラサギなどの珍しいサギも現われ、バードウォッチャーの目を楽しませてくれます。また、ミサゴというタカの仲間や、美しい姿のカワセミが魚を捕獲する場面に出くわしたりします。また、河原にはセッカやホオジロ、カワウなども観察できます。



明石市の西部には、広大な農地がたくさんあります。これら水田や畑には小魚や昆虫類が多く生息し、それらを目当てに多くの鳥が集まります。サギの仲間のアマサギやチュウサギ、ヒバリの仲間でヒバリ、セキレイの仲間でセグロセキレイやタヒバリ、チドリの仲間でケリやタゲリ、キジの仲間でキジなどが、それぞれが好む環境で暮らしています。

.....エコウイングあかし「自然グループ」のご紹介.....

エコウイングあかし(明石市環境基本計画推進パートナーシップ協議会)とは

「エコウイングあかし」は、明石市環境基本計画を推進していくための組織で、正式名称を「明石市環境基本計画推進パートナーシップ協議会」といい、従来の行政主導ではなく、市民・事業者・行政の三者がそれぞれの役割を持って、効果的に環境基本計画に掲げるリーディングプロジェクト(LP)を実践していくためのパートナーシップ組織です。

●リーディングプロジェクト(LP)

環境基本計画の中の先行的な取り組みで、市民、事業者、行政の三者が協働して創りあげ、実践していくものです。全部で13のプロジェクトがあり、ライフスタイル、エネルギー、自然に関する3つのグループに分けられます。

LP8:水でつながる明石の自然プロジェクト

●明石の代表的な自然である「水」（海、川、ため池、水路…）の環境を改善し、コウノトリがやってくるような自然環境を明石に作ります。

LP9:明石に「ふれあいの里山」を復活させよう！！ IN金ヶ崎公園

●夏休みにカブトムシやクワガタを捕まえた思い出。ずーっと明石に残しましょう。

LP10:地産地消あかし流＝えこあぐり

●地産地消って明石でもやってるの？できるの？環境とどんな関係があるの？

LP11:みどりのコーディネータープロジェクト

●まちにみどりを増やしたい市民と行政の緑化施策をつなぎます。

LP12:“古(いにしえ)の今”を次世代につなぐ「明石のよいところ」プロジェクト

●私だけが知っているんじゃない「明石のよいところ」！

LP13:自然環境ナビ

●たくさんある明石の自然・天然資源情報をもっと見やすく、もっとわかりやすく。

写真提供：板岡裕之、稲岡真理子、内田博、川島幸夫、長尾高明、長田洋也、森逸男

執筆・編集：板岡裕之、内田博、川島幸夫、長尾高明、丸谷聡子

デザイン・イラスト：稲岡真理子



発行/エコウイングあかし「自然グループ」

【事務局】明石市環境部地球環境課

〒673-0882 明石市相生町2丁目5-15

TEL. 078-918-5029

FAX. 078-918-5107